

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100076		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名(ユニット名)	グループホームなごみ・みよせの里		
所在地	和歌山県日高郡日高川町大字三百瀬973番地		
自己評価作成日	2017年8月2日	評価結果市町村受理日	平成29年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp">http://www.kai.gokensaku.jp</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成29年10月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人と事業所とも、多くの人の協同で立ち上げた非営利の法人であり事業所である。利用者一人一人の思いを大切にすること、おしゃべりと笑顔を大切にすること、ゆっくりのんびりいききを大切にすること、地域とのつながりを大切にすることなどを運営理念としている。建物は木造平屋で、民家が建て込んでいない静かな自然豊かな場所にある。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山や田畑に囲まれ、日高川の清流を目前に、恵まれた自然環境に囲まれた場所に立地している。「家庭的で温かい高齢者介護施設を作りたい」という、共通の思いを持った人たちで設立された施設で、施設内は小規模多機能施設、サロンが併設されている。平成28年5月に開設し、「よりよい施設を育てる会」が設立、職員、地域の住民から現在97名の会員で運営されている。地域住民やボランティアの協力にも恵まれ、各行事や菜園作り等に取り組んでいる。平成29年7月には社会福祉法人の設立に向けて申請中である。事業所の理念のもと、職員も地域住民との繋がりを大切にし、要望や意見、助言等にも耳を傾け、サービスの質の向上に活かしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿って実践に心がけている。	事業所の理念は法人の立ちあげ時に役員会で作り上げ、地域密着型サービスの意義を踏まえ、職員の勉強会や採用時に意識付けをして、共有している。日常の業務では理念がケアに反映されるように職員一人ひとりが取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所のサロンでの交流、地域の朝市への参加、小学校の相撲大会観戦、秋祭りの獅子舞、お寺の餅まき、中学校のマラソン大会の応援等に取り組んでいる。	自治会には加入していないがボランティアが運営する事業所内のサロンを地域に開放することで入居者と地域住民との交流する機会が多い。施設の見学や介護相談等で気軽に来所されたり、野菜やミカン等近所の方からのおすそ分けも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隔月に行い、事業所の運営状況を報告して意見を出合っている。地域の高齢者の状況や行事等の情報を提供してもらい、事業所の取り組みに生かしている。	運営推進会議は偶数月に行い、老人会代表、元農業委員、区長、家族代表、小規模多機能施設より利用者代表、行政2名、職員5名が参加し、意見や助言を得ている。会議で出た意見はサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開設して初めてのことが多く、町の担当者からお聞きしながら運営しており、日常的に協力関係を築いている。	市町村の担当者には介護保険に関することや、相談事項に応じて実直に対応してもらっている。研修の案内等の情報も得られ、日常的に協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為は全職員が理解している。夜間は、利用者の安全のためベッド柵を増やしている利用者が一人いる。また、日勤者が退出した後は職員一人体制になるため、内玄関ドアのカギをかけ、外玄関ドアは開けている。	気分が優れない入居者には職員と一緒に付き添い、近くの菜園まで散歩する等の支援を行い、入居者に抑圧感を感じさせないケアを行っている。日常の業務では事故事例等を話し合うことで安全面に配慮した対応策を取っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、日ごろから職員会議での話し合いに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持っていない。現在成年後見制度を活用している利用者が一人いるので、この人への対応を通じて職員の成年後見制度への理解はできつつある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や入院時などでその都度利用者や家族に説明し、十分理解をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは、散歩やサロンでの地域との交流など、毎日の生活での希望に添えるよう努めている。家族には隔月発行のニュースで、利用者の生活の様子を伝えている。また、面会時に家族の要望等をお聞きするようにしている。	家族からは面会時や担当者会議等の機会があるごとに話し合い、要望や意見を聞く機会を持っている。苦情の相談窓口については契約時に説明している。自分の思いを上手に表せない入居者には日頃の関わりからくみ取るように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的に行い、運営について自由に意見や提案を出し合っている。	職員会議の中での意見や日頃の業務の中での意見要望は充分聞いている。今年の夏まつり開催についても職員からの意見で実施に至った。研修や資格取得についてもバックアップし、働きやすい職場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境改善は、要望に沿い可能な限り即取り組んでいる。職員の一番の要望は給与引き上げだが、経営状態は厳しく、今後の大きな課題。決算書を職員に公開し、理解してもらっている。介護報酬の現状では大幅給与引き上げは困難。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修会はできていないが、毎月の職員会議で、職員の経験などを出し合ってお互いが学ぶようにしている。現在、事業所からの研修支援として、介護福祉士の資格取得の研修に2名が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在ではできていない。ネットワークづくりや勉強会は、新規事業所としては切実であるが、今後の課題としてぜひ取り組みたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の対応として大切なことであり、本人との信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭での本人の生活、家族の思いを十分お聞きして、家族との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人が初期に不安になるのは、本人が、事業所で安心した穏やかな生活ができるかということが多い。このことを中心に本人と家族とでよく話し合うことにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常は、本人の身体的状況をみながら、配膳、掃除などを職員と一緒にしている。また、行事の時の作り物や飾りつけなども共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族の思いなどをお聞きし、本人を家族とともに支えあうよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が良く面会に来てくれる利用者、事業所のサロンで馴染みの人と交流している利用者などがおり、こうした人たちとの関係を大切にしている。	家族が遠方の入居者には友だちが来てくれたり、近所の方がサロンに参加することで入居者と交流ができる等、馴染みの関係が継続できる支援ができています。病院受診の帰りも馴染みの喫茶店へ行く等、関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間には、気の合わない同士はあるが、日常的には無理をせず、誕生会などの行事ではみんなで楽しむなどの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した利用者は今のところいない。サービス修了者が出れば、本人・家族とのその後の関係を断ち切らないよう努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念の一つであり、心がけている。	日々の関わりの中で気付いたことは申し送りノートに記入し、全員で共有している。入居者の言葉や言葉にしづらい思いは、日々の関わりの中で表情などから汲み取ったり、入居時等に家族や関係者から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、本人と家族からよくお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	理念の一つが、のんびり、ゆっくり、いきいきを大切にすることであり、実践に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース会議で、利用者の状況はよく話し合っている。チームとしての介護計画が作成できていないが、ケアマネが状況を把握して作成している。	介護計画は本人・家族から要望を聞くように努め、医療職からの助言も得て作成している。今後はモニタリングを全員で行うことで、更によりよいケアが提供できるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録は作成している。細かく書けていないので、今後は改善していく。情報の共有は、朝夕の口頭送りや送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在のところ、本人や家族から時々ニーズは多く生まれていないが、柔軟に対応することは基本においている。事業所はサロン設置という特色があるので、サロンで本人と家族が、地域の方と交流することを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所づくりは、地域の方と共に取り組んできたこともあり、事業所のサロンと菜園は、地域のボランティアが多く関わっている。利用者が、散歩の途中でボランティアの家でコーヒーをごちそうになるなど、地域での生活を楽しめるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切にしている。事業所の協力医は2週間に1回定期的に往診してもらっている。	入居後も主治医は変更せず、馴染みの医師による継続的な医療が受けられるように支援している。受診は職員が付き添うことで、普段の様子や変化を伝え、帰宅時は申し送りノートに記入することで情報を職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常勤看護師を配置しており、必要に応じて日常的に相談できている。夜間でも、常に看護師と連絡が取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際の医療機関として、日高総合病院、北出病院、和歌山病院との連携ができしており、利用者によってそれぞれの病院に状況を把握してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、家族とよく話し合っている。現在は終末期の利用者はいない。	平成28年5月に開設した事業所であり、まだ看取りケアの経験はない。入居時には事業所として出来ることは家族に説明している。今後、高齢に伴い重度化する入居者も居られ、看取りの必要性を職員は自覚している。	本人や家族の意向を随時確認しながら、医師、職員が連携を取り、安心して納得した最期を迎えられるような体制を整えていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	てんかん発作を持つ利用者、低血糖で意識を失う利用者があり、看護師の指示で日常的に対応できている。転倒などの事故時の対応も実践的に身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を昨年9月と今年3月に行い、避難の方法などを全職員に徹底している。地域との協力体制については、現在運営推進会議で協議している。	消防署の協力を得て、避難訓練や消火器の使い方などの訓練を行っている。運営推進会議では災害時には近隣の人が事業所を利用できるように伝えている。水や非常食、ヘルメット、スコップ等物品も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できている。	一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねないように対応している。呼称については、基本「さん」づけで下の名前で呼ぶことが多い。個人情報の管理については鍵のかかる保管庫等で責任ある取り扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できている。 真夏の暑い日中でも外出を希望する利用者がいるが、健康管理に十分配慮し、可能な限り外出に同伴している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できている。 女性の利用者が多く、頭髪のカットは地域の美容師に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食と夕食は事業所の厨房で作る。食事前にはその日の献立を利用者に伝え、簡単な口腔体操をして、食事に対する意識を持ってもらっている。片付けができる利用者とは一緒にしている。おやつ作りも一緒にしている。	平成29年から、一人ひとりの誕生日に職員二人が付き添い外食を楽しむ支援をしている。近くの菜園には東屋やトイレも完備されていてピクニックに行ったり、おやつを食べたりする支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできない方のケアはできている。自分でできる方は声掛けはしているが、確認ができていないことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できている。	介護が必要な入居者には二人体制でトイレで排泄できるように支援している。排泄表をもとに職員からの気付きでリハビリパンツから布パンツに変える取組を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できている。	時間や曜日にとらわれずに本人の希望に添って入浴の支援を行っている。一人ひとりに浴槽内のお湯を変えて気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	事業所としてできる外出はできている。家族や地域と協力した外出はできていない。	近くの菜園に出かけたり、花めぐりに出かけたりする機会が多く、入居者が気分転換できるように取組んでいる。菜園内は車いすでも移動が可能となっている。また、受診時は自宅前を通ることで、本人の満足感が得られるように支援している。法事や墓参りは家族と外出する入居者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて使えるように支援している。お金は事業所が家族から委託を受け管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造建物の特色を生かし、居心地のよい共用空間はできている。	入居者が多くの時間を過ごすリビングは天井が吹き抜けで、ゆったりと過ごせる空間となっている。共用のトイレも2か所あり、浴室内にもトイレが設置されていて、常に気持ちよく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。 希望する利用者は、使い慣れた家具などを設置している。	使い慣れた筆筒や椅子を持ち込まれたり、家族の写真や好きな演歌歌手の写真が貼っていたり、ギターを持ち込んでる方も居られ、一人ひとりの好みを活かし、居心地よく過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアは、全室模様が違っており、利用者が自分の部屋が分かるように工夫している。		